

に、よな鳥は善知鳥の異名なり。この鳥子を捕られ、友をとらるゝときは、必よゝとなく故に、よな鳥といふといへり。人のかなしきにこそよゝともなかめ、鳥のかなしむ時、よゝとなくといふは、いよく受がたき事なり。むかしより外が濱にては、うとふとも呼つらめ、みやこ人はその名だに玄かと玄らざる鳥にやありけん、なほ考ふべし。

〔當代記〕慶長十二年六月、宇都宮主奥平大膳大夫家綱ヨリ、善知鳥ト云鳥ヲ、父美濃國加納奥平美濃守信昌エ進獻。此鳥謠ニ有間、日來有見物度ト依存分如。此前ヨリ鹽ニ漬來彼鳥ノ體、觜ハ鶴ノ箸ノチイサキ物也。頭ハ猪ノシカリ毛ノ如シ、トサカ有之。水鳥ノ如シ、水カキ有、但カケ爪ナシ。鳥ノ大サハアヂト云。水鳥ノ少長キ物也。生タル時鳴聲千鳥ノ聲ノ高キ物也。ト云々、子ヲ平砂ニ生捨ケルガ、我トソダチケルト也。生立ケレバ親ヲ養アルト也。此レ善知鳥也。

〔謠曲〕善知鳥

後シテ下陸奥の、そとのはまなる、よぶこ鳥、なく成聲は、うとふやすかた。○中上シテ中に無慙やな此鳥の、同をろかなるかなつくばねの、木々の梢にもはをしき浪のうきすをもかけよかし、平砂に子をうみて落雁のはかなや親はかくすとすれどうとふと呼れて子はやすかたと答へけり。

〔和爾雅〕禽六鳥信天翁アホウドリ一名漫畫、見于潛確類書。

〔物類稱呼〕二物信天翁らしい九州にてらいと云、土佐國にてとうくらうと呼、丹後にてあはう鳥と云、長門國にては沖のたゆふと云、此鳥うす青く白し、觜長。

〔大和本草〕十五水鳥信天翁鷗ニ似タリ、淡青白色ニシテ喙長ク少ソレリ、脚赤シ、海邊ニアリ、雁ヨリ大也。○中本草綱目鵜鶘ノ集解ニ信天翁ト云者、即是也。食ヲ不貪鳥ナリ、又漫畫ト云鳥アリ、終日食ヲ求メ貪ル、此二物其性貪廉異リ、潛確類書、事言要文群談採餘、琅琊代醉等ニモノセタリ、ライ